

2024年2月10日

全国大学国語教育学会
2023年度 学会通信 第3号

全国大学国語教育学会事務局

全国大学国語教育学会会員の皆様

会員各位におかれましては、年度末の慌ただしい毎日をお過ごしのことと拝察します。
さて、1月1日に発生しました能登半島地震では、本学会会員の皆様の中にも、ご自身や関係者の方々に被災した方がおられることと存じます。心よりお見舞い申し上げます。一日も早く復興がなされ、もとの生活が取り戻せますよう、お祈り申し上げます。

このような中ですが、2023年度学会通信3号をお送りします。例年より発行日が遅れましたことをお詫び申し上げます。内容は、第146回鹿児島大会（鹿児島大学教育学部）の開催情報、『国語科教育』第九十六集の投稿案内です。よろしくお願いいたします。

◆全国大学国語教育学会マイページのご案内

学会ホームページにマイページをご用意いたしました。学会ホームページよりリンクがありますので、そこから登録頂けます。「登録情報の確認・変更」「年会費の納入状況の確認」が機能としてございます。ご自宅・ご所属先に変更があった際は、マイページにログインいただき、随時変更をお願いいたします。ログインには会員番号とパスワードが必要となります。大変お手数をおかけしますが、ログイン画面中央部の「パスワードの設定はこちら」より、会員番号と学会に登録されているメールアドレスをご入力の上、パスワードの設定をお願いいたします。メールアドレスの登録が無い方、不明の方は、事務局までお問い合わせください。



マイページ登録
はこちら

第146回全国大学国語教育学会・鹿児島大会(対面開催)について

◆第146回全国大学国語教育学会・鹿児島大会（対面開催）のご案内（第1次）

実行委員長 上谷順三郎（鹿児島大学）

皆様におかれましては、お忙しい日々をお過ごしのことと存じます。

さて、第146回全国大学国語教育学会・鹿児島大会は、信州大会と同様に対面で開催し、懇親会を設けます。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

1. 開催日：2024（令和6）年 5月25日（土）、5月26日（日）

2. 会 場：鹿児島大学 郡元キャンパス（教育学部）
（〒890-0065 鹿児島市郡元1丁目20番6号）

- 学会参加については、事前申し込みを基本といたします。以下の案内にしたがって、事前に参加申し込みの手続きをお願いいたします。
- 宿泊ホテルについては、案内・斡旋をいたしません。各自でお願いいたします。鹿児島中央駅周辺・天文館周辺には複数のホテルがありますが、なるべく早めに予約されることをお勧めいたします。なお、鹿児島大学の駐車場は使用できません。会場までは、市電（「工学部前電停」下車、徒歩約5分）、JR指宿枕崎線（「郡元駅」下車、徒歩約12分）をご利用ください。

■ 鹿児島大学 郡元キャンパス（教育学部）への交通アクセス

<https://www2-edu.edu.kagoshima-u.ac.jp/access/>

■ 鹿児島大学 郡元キャンパス（教育学部）へのキャンパスマップ

<https://www2-edu.edu.kagoshima-u.ac.jp/campus-map/>

3. 大会事前情報等：

鹿児島大会広報サイト：<https://sites.google.com/jkajyo.ac.jp/jtsj2024kagoshima/>

- * シンポジウムや課題研究発表、公開講座に関する情報を随時更新していきます。
- * コロナウイルス対策に関する大会運営上の諸注意や状況に鑑みての変更点などについても随時このサイトに情報をアップします。

4. 二日間の概要（予定）

第1日 5月25日（土）	
8:45	受付
9:30	自由研究発表
12:20	昼食
12:55	理事会
14:00	総会
15:10	シンポジウム
17:40	
18:30	懇親会
20:30	

第2日 5月26日（日）	
9:00	受付
9:30	課題研究発表
12:00	昼食
12:30	若手研究交流企画
13:40	自由研究発表 ラウンドテーブル
16:30	

- 1日目の理事会、2日目の若手交流企画は、これまで昼食を取りながら行っていましたが、コロナ対策として昼食（30分）を取った後にそれぞれ行います。

<第1日目 5月25日（土）>

- AM 自由研究発表
- PM 理事会・総会
シンポジウム

児童生徒が熱中する国語科授業の創造－国語科授業観について考える－（仮題）

コーディネーター 原田 義則（鹿児島大学）

登壇者 上原 孝夫（鹿児島県教育委員会）

野間 なつき（奄美市立小宿小学校）

原之園 翔吾（奄美市立伊津部小学校）

山元 隆春（広島大学）

懇親会会場…ヴェジマルシェ（[鹿児島大学郡元キャンパス内 稲盛記念館 2F](#)）

<第2日目 5月26日（日）>

- AM

課題研究発表

国語科教育研究に求められる新たな「知」

コーディネーター 森 美智代（福山市立大学）

登壇者 谷川 嘉浩（京都市立芸術大学）

山田 直之（関西大学）

浮田 真弓（岡山大学）

○ PM 若手研究交流企画

自由研究発表・ラウンドテーブル

<公開講座について>

5月18日（土）14:30 ～ 17:30（Zoomミーティング）

テーマ：行為としての文学をどのように学ぶか②

ー中学校・高等学校国語科における物語・小説の役割から考えるー

司会・進行：鈴木 愛理（弘前大学）

話題提供者：千野 帽子（文筆家）

丹藤 博文（愛知教育大学）

中野 登志美（宮崎大学）

※ 今回の公開講座は、学会の大会当日とは異なる日程で開催します。

※ 公開講座は、Zoomミーティングで実施します。事前の申し込みが必要となりますが、詳細については広報サイトでお知らせします。

※ 公開講座にのみ参加する場合には、学会全体への参加申し込みは必要ありません。（無料で参加することができます。）

※ 公開講座に関する情報は、鹿児島大会広報サイトに随時更新していきます。

鹿児島大会広報サイト：<https://sites.google.com/jkajyo.ac.jp/jtsj2024kagoshima/>

/

5. 発表の募集

発表は、①自由研究発表と②ラウンドテーブルの二種類になります。鹿児島大会では発表数の制限を行います。①自由研究発表は50名まで、②ラウンドテーブルは3会場までといたします。いずれも先着順で、制限数を超えた場合はご辞退いただくことになります。また、いずれも発表要旨を事前に提出する必要があります。

（1）募集区分

①自由研究発表：発表時間20分＋質疑応答10分 接続時間5分

②ラウンドテーブル：1時間30分 ～ 2時間50分（予定）

（2）申し込み方法

発表・参加申込システム<https://iap-jp.org/jtsj/conf/member/login> よりお申し込みください（鹿児島大会広報サイトからもお入りいただけます）。申し込み開始は、2月26日（月）を予定しています。

なお、Webでの申し込みが難しい場合に限り、別のお申し込み方法をご案内いたします。大会ヘルプデスク（後述7. 参照）までお問い合わせください。

(3) 申し込み締切

発表申し込み締切 3月21日（木）17時

要旨投稿締切 4月12日（金）正午

＊要旨について、締切日を過ぎた場合は、要旨掲載予定箇所が白紙となります。同時に、鹿児島大会資料サイトへの要旨掲載も行えなくなります。ご注意ください。

(4) 申し込み上のご注意

①発表資格について

自由研究発表の発表申込者(筆頭発表者)及び共同発表者と、ラウンドテーブルの発表申込者(コーディネーター)は、本学会の会員資格を有し、年会費を納入していることが条件となります(年会費をご納入いただけない場合は、発表できません)。

以下をご確認いただき、お手続きを済ませた上で申し込みをお願いいたします。

- ・ **今回の発表に際して、新規に入会される方**

3月11日(月)までに入会申請を行い、3月28日(木)までに年会費をご納入ください。
早めのご対応をお願いいたします。

- ・ 現会員の方

大会開催年度(令和5年度)までの年会費を、発表申込締切日 3月21日（木）までにご納入ください。

②その他注意事項

- ・ 締切後の発表申し込みは、一切受け付けません。
- ・ 自由研究発表の発表日指定はできません。
- ・ 発表申し込み締切後は、題目・発表者等の変更はできません。
(締切日までは、ご自身でシステムから修正可能)
- ・ 発表申し込みの登録情報と要旨原稿の記載情報は、必ず一致させてください。やむを得ず変更があった場合は、必ず大会ヘルプデスクまでメールでご連絡ください。

(5) 発表申し込み時の入力項目

①自由研究発表

お申し込みは、筆頭発表者が行ってください。

- ・ 発表区分(自由研究発表を選択)
- ・ 題目・副題

- ・筆頭発表者の氏名(ふりがな)、所属
- ・共同発表者がいる場合は、その方の氏名(ふりがな)、所属
- ・プロジェクター使用希望の有無（パソコンは発表者持ち込みで、お願いいたします。接続ケーブルは用意いたしますが、会場によってRGBかHDMIのいずれかで接続することになりますので、必ず両方の接続アダプターをご準備ください。）

②ラウンドテーブル

お申し込みは、コーディネーターが行ってください。

- ・発表区分(ラウンドテーブルを選択)
- ・題目・副題
- ・登壇者の氏名(ふりがな)、所属、発表形式
- ・共同発表者がいる場合は、その方の氏名(ふりがな)、所属
- ・プロジェクター使用希望の有無（パソコンは発表者持ち込みで、お願いいたします。接続ケーブルは用意いたしますが、会場によってRGBかHDMIのいずれかで接続することになりますので、必ず両方の接続アダプターをご準備ください。）

(6) 発表要旨原稿の投稿

- ・発表申し込み完了後、投稿できます。
- ・テンプレートは、学会ホームページ（<https://www.jtsj.org/taikai>）に掲載しておりますので、ご活用ください。A4判4ページ以内になります。大会発表要旨集（6.（2）③参照）には、A4判白黒で掲載）。
- ・原稿は、PDFの形式にし、発表・参加申込システムより投稿してください（投稿画面にPDF変換の装置を設置しています）。なお、文字化け等が発生することがありますので、PDF変換後の原稿は必ずご確認ください。
- ・要旨原稿はPDFデータを鹿児島大会資料サイトにも掲載いたします。

(7) 発表にあたっての留意点

- ・当日資料を用意する場合は、以下の点にご留意ください。
 - ・『発表要旨集』が配付されていることを前提に、要旨原稿との重複を避け、必要な資料にしぼって作成してください。
 - ・会場運営の都合上、できるだけA4サイズで作成いただきますようお願いいたします。
 - ・100部を作成し、発表当日、発表会場（教室）までお持ちください。大会事務局では印刷などの対応は一切致しません。また2日目の資料を1日目にお預かりすることもできません。
 - ・鹿児島大会資料サイトにも掲載をよろしくお願いいたします。
（学習者等の個人情報や著作権に関する取り扱いにはご注意ください。）

- ・ プロジェクターを使用する場合は、以下の点にご留意ください。
 - ・ パソコンは発表者持ち込みで、お願いいたします。
 - ・ 接続ケーブルは用意いたしますが、会場によってRGBかHDMIのいずれかで接続することになりますので、必ず両方の接続アダプターをご準備ください。

6. 大会の参加

事前参加申し込み締め切り 5月7日（火）

※ 振込決済による郵便為替の申込メ切は4月22日（月）までです。

お早めにお手続きください。

（1）申し込み方法

学会参加については、事前申し込みが必要です。申し込み開始は、2月26日（月）からの予定です（開始前は、アクセスしても受付期間外のメッセージが表示されます）。

- 1) 発表・参加申込システムのログインページにアクセスする。

【発表・参加申込システム】 <https://iap-jp.org/jtsj/conf/member/login>

（鹿児島大会広報サイトからもお入りいただけます）

- 2) ログインIDを取得する。登録したメールアドレスに、ログインIDが記載された完了通知メールが配信される。
- 3) ログインIDと登録したメールアドレスを入力してシステムへログインする（このログインIDとメールアドレスは、保存・管理をお願いいたします）。
- 4) 申込者情報を登録する（会員としてお申し込みいただく際は、会員番号が必要となります。会員番号は、学会から会員の皆様宛に送られる封筒の宛名に記載されています）。
- 5) 事前参加申込、発表申込、要旨投稿を行う（申し込みが完了すると、登録したメールアドレスに申込完了通知メールが配信されますのでご確認ください）。

（2）大会参加費

①参加費用

以下、該当する金額をご納入ください。申し込み開始日（2月26日（月）を予定）以降、システム上で手続きを行ってください。

事前申込（5月7日まで受付）	当日申込（会期前再オープン）
（会 員） 5,000円	（会 員） 6,000円
（学生会員） 3,000円	（学生会員） 5,000円
（非 会 員） 6,000円	（非 会 員） 6,000円
（学生非会員） 4,000円	（学生非会員） 5,000円
（懇親会） 6,500円	参加人数：100人まで

※ 会場・・・ヴェジマルシェ（[鹿児島大学郡元キャンパス内 稲盛記念館 2F](#)）

※ 感染拡大防止に向けた取組として、会期当日に現金での受付は行いません。

事前参加申込の締め切り後（5月8日以降）に、ご参加を希望される場合は、参加申込サイトから当日参加申込と参加費のお支払い（クレジットカード決済のみ）を完了させた上で、会場受付にお越しください。

※ 当日参加申込は、会期前にはオープンいたしますので、受付での人の密を避けるため、会場に来られる前に申込をお済ませください。

※ クレジットカードをお持ちでない方は郵便振替での事前申込期間（4月22日）の登録をお願いします。

※ 公開講座のみ参加の場合は、参加費用が不要のため、発表・参加申込システムによる参加登録は不要です。参加方法については、鹿児島大会広報サイトでお知らせいたします。

②昼食（1日目・2日目）

※ 1日目は学会の行われる鹿児島大学郡元キャンパス内の「中央食堂」が利用可能です（11時～14時）。また、大学周辺にレストラン、コンビニ等がありますので、そちらをご利用ください。

※ 2日目は大学の食堂はお休みですが、大学周辺にレストラン、コンビニ等がありますので、そちらをご利用ください。

※ 理事会参加の役員の方々、シンポジウム・課題研究発表に登壇される先生方の弁当は、大会事務局で準備いたします。

③お支払い方法

※ 郵便振替とクレジットカード決済のいずれかをご選択ください。

※郵便振替の場合：お振込先は、申し込み完了後に配信される完了通知メールに記載されています。郵便振替の申し込みは4月22日（月）まで、入金は4月23日（火）までにお願いいたします。

④その他注意事項

※ 発表申し込みと大会参加申し込みは別です。発表者は、必ず参加申し込みを行ってください。

※ 印刷された大会発表要旨集を希望される方は、実費(4000円・送料込み)でお求めいただけます。大会参加申し込み時に選択してください。5月7日までに入金を確認した申込は会期前に発送をいたします。それ以降の申し込み分については、会期後に発送をいたします。なお、大会発表要旨集は、大会終了半年後以降に、J-stageにアップする予定です。

※ 大会参加のため、新規に本学会に入会される方は、4月4日(木)までに入会申請を行い、4月15日(月)までに年会費をご納入ください。ご入会にはお時間がかかりますので、お早めにお手続きください。

※ 託児サービスについては検討中です。2次案内でお知らせいたします。

7. お問い合わせ先

● 参加・発表申込・原稿投稿・諸費用に関すること

全国大学国語教育学会大会ヘルプデスク

E-mail : jtsj-desk@conf.bunken.co.jp

FAX : 03-5227-8632

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

● 年会費に関すること

全国大学国語教育学会事務局

E-mail : jtsj-post@bunken.co.jp

TEL : 03-6824-9377 FAX : 03-5227-8631

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

● 第146回全国大学国語教育学会鹿児島大会（対面）に関すること

鹿児島大会事務局

E-mail : jkami@edu.kagoshima-u.ac.jp

TEL & FAX : 099-285-7842

〒890-0065 鹿児島市郡元1-20-6 鹿児島大学教育学部 上谷順三郎宛

※お問い合わせは、Eメールでお願いいたします。

● 鹿児島大会実行委員会

大会実行委員長 上谷順三郎・鹿児島大学

事務局長 原田 義則・鹿児島大学

千々岩弘一・鹿児島国際大学

瀬筒 寛之・鹿児島大学

幸 聖二郎・鹿児島純心大学

藤川 和也・鹿児島女子短期大学

※投稿に関する詳細情報はこちら

<https://www.jtsj.org/kokugoka>

1. 投稿論文の受付期間は**2024年3月1日(金)～2024年3月31日(日)**です。この期間以外に投稿された原稿は審査の対象となりません。
2. 第九十四集から、『国語科教育』への投稿は**電子投稿システムによる募集**となっております。郵送による原稿募集はいたしませんのでご注意ください。電子投稿システムには学会ホームページから入ることができます。投稿システムのマニュアルが準備できましたら、学会ホームページでアナウンスいたします。
3. 投稿に際しては次の『「国語科教育」投稿要領』に従ってください。なお、電子投稿に対応するため以下の「原稿を投稿するにあたって」の投稿方法に関する箇所が修正されていますので必ずご確認ください。

「国語科教育」投稿要領（令和5年1月26日改訂）

投稿論文の内容および体裁について

1. 論文原稿は未発表のものに限る。ただし、口頭発表、プリント類の場合はこの限りではない。なお、他誌に掲載された自らを著者とする論文と著しく重複する内容の論文を、投稿してはならない。
2. 重複投稿の禁止
本誌『国語科教育』に投稿された論文等はその採否が決定するまで国内・国外を問わず他誌に投稿することはできない。また、他誌に投稿中のものは受付けない。
3. 募集枠は、「研究論文」「実践論文」「資料」の三つのカテゴリーとする。どの枠に応募したものであるかが分かるように、そのことを題名の前に明記する。ただし、採択の枠付けに関しては、編集委員会の最終的な判断によるものとする。
研究論文：独創的な知見を含む学術研究。
実践論文：国語科の先行実践をふまえて、新たな実践の方向性や意義・価値について学術的な根拠に基づいて論じたもの。
資 料：国語科教育学に関する基礎的データや国語教育の実践・研究に関する情報を提示したもの。
4. 連続掲載は、原則として2回までとする。
5. 論文原稿は、縦書きまたは横書きで、原則としてパソコンを使用する。
6. 編集委員会において特に枚数を指定するもの以外の論文原稿は、原則として400字詰原稿用紙ほぼ40枚（8ページ分）以内とし、1ページあたりの字数・行数を次のようにする。
 - (1) 横書きの場合
23字×44行×2段（1ページ2,024字、ただし最初の1ページは、題目・氏名のスペースとして7行2段をとる。）

(2) 縦書きの場合

33字×31行×2段（1ページ2,046字、ただし最初の1ページは、題目・氏名のスペースとして7行2段をとる。）

- * 学会ホームページに記載している、**投稿原稿用のテンプレートを必ず使用すること。**
- * 引用および注の文字ポイントは本文と同じとする。ただし、図表についてはこの限りではない。
- * 図表は本文の中に含めて計算し、本文内に該当箇所を明示することとし、縮小率は8割以上とする。

7. 原稿は以下の体裁で整えること。

(1) 論文本体

- * 表題の下に、投稿論文に関わるキーワードを記すこと。
- * **論文には氏名・所属等、書き手を特定できる情報は書かないこと。（書かれている場合は審査対象から除外されます）**

(2) 注（ただし、引用のための注はつけない）

(3) 参考文献

- * **論文本体や注、参考文献に「拙稿」「拙著」など、投稿者名が判明するような記述を行わないこと。**

(4) 研究助成を受けた場合の記載

- * 科学研究費等の助成を受けた場合は、書き手が特定されないように、課題番号部分を以下のように記載すること。
(例：本研究は、JSPS科研費課題番号 ****の助成を受けた) *の数
は課題番号の文字数に合わせる。

8. 引用文献の記載について

(1) 引用文献の記載方法は、原則としてAPAスタイルに準拠する。

(2) 本文中における引用の記載方法は、次の通りである。

- ① 著者が一人の場合は、著者の姓および発行年を本文中に挿入する。
……（高橋，2010）。……（Black，1988）。
高橋（2010）は、……。Black（1988）は、……。
- ② 著者が二人の場合は、両方の著者の姓および発行年を本文中に挿入する。
……（高橋・鈴木，2012）。……（Black & White，1992）。
高橋・鈴木（2012）は、……。Black & White（1988）は、……。
- ③ 同一刊行年の文献は、刊行順にa, b, c, を刊行年に付し区別する。

佐藤学（1999a）『教育時評 1997-1999』世織書房

佐藤学（1999b）『学びの快楽 ダイアログへ』世織書房

(3) 論文末に、日本語文献と非日本語文献とに分けて参考文献を記載する。日本語文献は著者の姓の五十音順に、非日本語文献は著者の姓のアルファベット順に参考文献を掲載する。翻訳文献は、非日本語文献として記載する。記載方法の例は、次の通りである。

① 学術誌の論文

石井庄司（1953）「国語教育学の完成を期して」『国語科教育』第2号，1-4.

Posner, G. J., Strike, K. A., Hewson, P. W., & Gertzog, W. A. (1982). Accommodation of a scientific conception: Towards a theory of conceptual change. *Science Education*, 66(2), 211-227.

② 書籍

全国大学国語教育学会編著（2013）『国語科教育学研究の成果と展望 2』学芸図書

大槻和夫（1997）「国語科教師における国語教育学の目的と体系」全国大学国語教育学会編『国語教育学の建設1 国語科教師教育の課題』明治図書，1-104.

Fraser, B. J., Tobin, K. G., & McRobbie, C. J. (Eds.). (2012). *Second international handbook of science education*. Dordrecht, Netherlands: Springer.

Wertsch, J. V. (1991). *Voices of the Mind: A sociocultural Approach to Mediated Action*, Cambridge, Mass: Harvard University Press. 田島信元他訳（1995）『心の声—媒介された行為への社会文化的アプローチ』福村出版.

③ オンラインからの引用

文部科学省（2011）「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1301088.htm（〇年〇月〇日確認）

Degelman, D., & Harris, M. L. (2000). *APA style essentials*. Retrieved May 18, 2005, from Vanguard University, Department of Psychology Web site:

http://www.vanguard.edu/faculty/ddegelman/index.cfm?doc_id=796

(4) 本文中の文献ページ数の記載は、以下のいずれかの方法に従う。

① 発行年の後に「:」（コロン）を入れて「著者名（発行年:ページ）」とする

例：石井庄司（1957:2）は「〇〇〇」と述べている。

② 引用の最後にページ数を明示する。

例：石井庄司（1957）は「〇〇〇」（p.2）と述べている。

③ 注の形式（脚注，または，巻末注）で，参照する文献のページ数を明示する。

例：石井庄司（1957）は「〇〇〇」¹と述べている。 注1. 石井庄司（1957）p.2

原稿を投稿するにあたって

9. **学会ホームページから電子投稿システムによって投稿すること。**投稿に際しては、論文の電子ファイル（WordファイルまたはPDFファイル）が必要になる。なお、英文要旨と日本語要旨は論文掲載決定後に提出となる。
10. 投稿論文は，上期においては8月1日から8月31日までの期間，下期においては3月1日から3月31日までの期間に受け付けるものとする。
11. 著作権について
本誌『国語科教育』に掲載された著作物（電子媒体への変換による利用も含む）の複製権，公衆送信権，翻訳・翻案権，二次的著作物利用権，譲渡権等は本学会に譲渡されたものとする。著作者自身のこれらの権利を拘束するものではないが，再利用する場合は事前に本学会宛に連絡をする。
12. 投稿資格について
投稿にあたっては著者全員が会員資格を有し，**当該年度までの年会費を納入していること。**